

事前と事後のリスク対処戦略

—ザンビア東部・南部州の自給的農民はいかに行動しているか？—

Thamana Lekprichakul

総合地球環境学研究所

ザンビア東部州と南部州では、小規模農民が生活のかなりのリスクにさらされており、生活水準の激しい変動を伴う結果となっている。この結果、彼らは複雑なリスク対処戦略の組み合わせを発達させ、これによって危機の前にリスクを回避したり、移転したり、減少したりし、またショックを経験した後に厚生への影響を緩和し、防御している。早ばつ、マラリア、家畜の疾病、洪水、家長の死亡が2001年から2006年までの過去6年間で小規模農民が経験したのものとしてトップ6災害に挙げられたものである。その中でも早ばつは、小規模農民にとって最もダメージが大きい災害と報告されている。

世帯はリスクが発生する前にそれに対処する方法をいくつか持っている。リスク回避、リスク転移、リスク減少は3つの主要な戦略である。通常最も良く使われるリスク対処の方法として、この研究ではリスク減少に焦点を当てる。リスク減少は多様化、自給化、差別化などによって達成される。その中でも、差別化は低リスク・低リターン型の生業システムでは実行に限界がある。一方、食料生産の自給化は、基本的で最も典型的な戦略である。市場の不在または不完全性は自給的戦略の存在に貢献しているかもしれない。加えて、東部州と南部州の農民は、生業の多様化、作物の多様化、圃場の多様化、資産の多様化、家畜の多様化等さまざまな多様化の戦略を取っている。

東部州と南部州の小規模農民が取るこれら事前的多様化戦略には違いがある。南部州に比較して、東部州では、世帯の規模が大きく、賃金労働やその他のビジネスからの収入機会があり、送金や仕送りをしてリスクを分散しており、野菜や果物を売り、多様な資産を所有し、家畜の種類も多様である。南部州での農家の作物の種類は、比較的市場リスクの低い穀物生産が中心となっており受動的である。一方東部州では、ダウンサイドリスク（可能損失額）に弱い換金作物を重要視している。多様性をスペクトラムとして捕らえ、垂直的多様性を1極とし、水平的多様性をその対極とすると、南部州農民のリスク対処行動は完全な垂直的多様性に近く、一方東部集農民の多様性は高い収益が可能な換金作物による多様性に主眼を置いた水平的多様性に近いと言えよう。

東部州と南部州農民の事後的対処戦略も、また明らかに異なっている。東部州では、リスクに対処するために別の収益機会に従事することと、インフォーマルな保険機能によって収入を平準化する戦略を用いている。南部州では、耐乏生活の増加とインフォーマルな保険機能によって対処していた。耐乏生活の採用が資産の平準化戦略を示唆するものなのか明らかではない。その動機についてはさらなる調査が必要である。南部州小規模農民の事後的危機対処戦略の計量化は、東部州と比較して正確性に乏しいことに気をつけなければならない。ショック対応戦略の中で「不明・その他」のカテゴリーに回答したサンプルの多さから、回答ミスの可能性が指摘される。